



一九九一年九月三日第三種郵便物承認毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

赤い鼻をつけたクリニクラウンが 小児病棟にやって来る

〜クリニクラウンとして今思うこと〜

〔サロン・あべの〕6月の出会い

平成23年6月18日(土)〔サ
ロン・あべの〕6月の出会いは、

育徳コミュニケーションセンターに

おいて、「赤い鼻をつけたクリ

ニクラウンが小児病棟にやって

来る〜クリニクラウンとして今、

思うこと〜と題して、伊佐常

和さん(特定非営利活動日本ク

リニクラウン協会)にお話を伺

いました。

・クリニクラウン(臨床道化師)

とは

病院を意味する「クリニック」

と道化師を指す「クラウン」を

合わせた造語。入院生活を送る

子どもの病室に定期的に訪問し、

遊びや関わり(コミュニケーション

ョン)を通じて、子どもたちの

成長をサポートしながら笑顔を

育む道化師のこと。

・クリニクラウンの役割

活動の主役はあくまで「こど

も」。病気治療のために様々な

制限の中で入院生活をしている

子どもたちが、おもいきり笑い、

主体的に遊ぶことのできる環境

をつくること。子どもの成長や

発達をサポートするという視点

を持ち、医療スタッフと協議し、

子どもの療育環境の向上を目標

として活動する。

・子どもの成長に欠かせない3

要素(遊び・発見・社会的環境)

子どもは家族や地域、友だち

など、他者との関わりの中で様々

な体験をし、その関係性を深めることで活き活きとした生活が送れる。しかし、入院生活が長くなると子どもの成長に大切な出会いや遊びが制限され、子どもらしい時間を過ごすことが難しい。

そこでクリニクラウンは、遊び会話によるコミュニケーションを通じ、「わくすごい」という驚きを届ける。また、遊びの中から生じる子どもたちの瞬間的なひらめきや、新鮮な発見を



大切にしている。「こんなことをクリニクラウンにしてみよう」といった子どもの自主性や、訪問後も「楽しかった!」「今度会ったときはこうしよう」という子ども自身の能動性を引き出す。

・クリニクラウンの特徴

1、クリニクラウンは、道化師の特徴である赤い鼻をつけているが、化粧はせずシンプル。それは、病院に入るから。

2、クリニクラウンは、常に二人一組で病棟を訪問する。男女ペアが基本。病院では何が起るかわからないので、一人が関わり、もう一人が周りをみながら安全にも注意。また、二人の掛け合いも楽しんでもらう。

3、専門教育と遵守規定

病院の規則に従う。クリニクラウン協会では、衛生管理などの臨床現場に必要な研修を受け、病院訪問の基本ガイドラインの遵守を義務づけている。

4、定期的な訪問

病院には定期的に訪問する。1ヶ月に一回位行き、子どもたちがクリニクラウンにまた会いたいという気持ちや、自主性を守る。

・こどもを超えたスーパードット

クリニクラウンのことを「こどもを超えたスーパードット」であるという。子どもよりも子どもらしい心と発想を持ったクリニクラウンに出会うことで、子どもは驚きや喜び、そして豊かなコミュニケーションを体験することができる。

・クリニクラウンの1日

1、準備運動をする。メンバーが集まり事前打ち合わせをして、病院に移動。協会へ訪問開始の電話連絡を入れる。

2、訪問準備、病棟に持ち込む人形やマカスなどの道具を消毒。

3、病棟スタッフとの打ち合わせ(カンファレンス)

こどもたちの体調の確認や心の状態を把握する大切な時間。

4、病棟訪問

病棟スタッフや家族とも積極的にコミュニケーションをして、子どもたちと接する人にもリラックスしてもらおう。子どもたちとの遊びから生まれる楽しさや発見は、子どもが子どもらしく成長するのに欠かせないもの。

5、訪問後カンファレンス

子どもたちの様子を病棟スタッフと共有す

る。子どもの成長や発達という視点から話し合う。

6、訪問終了後片付け・消毒

7、報告事務局へ報告書を提出。

現在、クリニクラウンは全国で15人、東京や大阪を中心に活動している。子どもが子どもらしい経験をすることを支援し、子どもの時間を大切にサポートしていきたい。

と、にこやかに充実した活動のお話をされた後、伊佐氏は、直径4〜5cmの赤いスポンジのボールを取り出し鼻に着けました。

これは「一万人の笑顔大作戦!」ということで、毎年8月7日に周りの人に笑顔を贈る日として「REDNOSEDAY」イベントが企画されているそうです。お昼12時に1分間だけ、赤いボールを鼻に着けて周囲に笑いを贈る活動です。参加者も一足早くred nose dayの喜びを味わいました。

DVDでクリニクラウンの活動の映像もみせていただき、子どもと関わり、子どもとの遊びの中で子どもの生きる力や成長をサポートするのは素晴らしいと感じた(サロン・あべの) 6月の出会いでした。

(参加者15名山村貴司)

美智子のこんな話

岸田美智子

わたぼうし語り部塾の発表会に行ってきました！

先日、奈良のたんぼぼの会が主催する、障害者のわたぼうし語り部塾の生徒さんたちの発表会を見学させていただく機会がありました。この塾は重度な障害を持つ方々が自己表現の方法のひとつとして、語り部になることを目的に一年間周期で実施されています。この語り部塾の考え方は、障害のある人たちが、障害を個性として生かし、民話や創作童話、自分史などに自分の思いを重ね合わせ、聞く人たちの魂に働きかける表現活動です。母体である財団法人たんぼぼの家では、1989年「わたぼうし語

り部学校」を開校し、多くの語り部たちを生み育ててきましたが、1999年に「わたぼうし語り部塾」としてリニューアルさせ、より具体的な学びの場を提供しています。この日の発表会は、五人の卒業生の発表がありました。この五人は、いずれも重度な障害を持っていて受講生ばかりでしたし、言語障害も結構重い方が発表されていました。舞台もあり、健常者のスタッフが黒子の衣装をつけテキパキと障害者の介助を行ったり、障害者の発表中の効果音や、バックミュージックなどの演出を盛り上げていました。一年間の塾の内容は、たんぼぼの家での二泊三日の合宿を三回と、通信による指導が四回あるそうです。発声練習などもあり、ある受講生はかなり早くしゃべれるようになったそうです。わたしは、

良い言語訓練の場になるなあと実感してしまいました。こういう形の言語訓練ならもつともつと広がって欲しいものです。受講生の中には、広島や岩手など近畿圏以外からも参加されていて、良い障害者の出会の場にもなっているそうです。この日の発表者の中には、びわこ学園という入所施設からも参加されていました。この発表会のプログラムには、ゲストパフォーマーとして、河内音頭のメンバーも参加して、参加者全員とこの日の観客者も一緒に踊ったりしていましたし、この発表以外に卒業生二人の発表があり、語りを仕事としてあっちこちイベントに呼ばれたりしているそうです。この日は、風情のある奈良町の町並みを初めて見学できましたし、お土産に柿の葉寿司を買って味わうこともでき、ちよつとした小旅行気分を味わうことのできた一日でした。

お問い合わせは、同センター(06・6357・5797)へどうぞ！

サロン・あべの毎月の感謝

カンパ、お茶菓子、書籍等、またサロングッズのお買い上げ、

ありがとうございます。

カスタネット、大和田弓子、神城昭子、定籙邦子、南光仁子、平岡太、町野旬子、森下公子、その他の方(敬称略)

大河に浮かぶ 枯葉のように

昨年の秋に父が亡くなったあと、父の夢をよくみる。だが、面白いことに最近気がついた。夢のなかの父は、病状がだんだん軽くなっているのである。

最初は目が覚めていて、焼けて骨になったはずの身体があるというだけで、私のことはあいかわらず誰だかわからない様子だった。それが、このごろは私のことがわかるようになってきた。私は、どこまでわかるようになったのかなと、あれこれ質問してみる。そんな感じのまま短い夢は終わる。

母は父が亡くなったあと、長く父と暮らした自宅にすることを嫌がった。それで遠くの高齢者専用賃貸住宅に引っ越した。そこで落ち着い

たかと思つたら、自宅の近くの別の高齢者住宅に、もう一度引っ越す。そしてこの夏には、また自宅に戻るようになった。母の友人たちは、また地元に戻ってくるので喜んでくれているという。

この私の夢の変わり方、母の変化はどう考えたらいいのだろう。時の流れで、落ち着いたということだろうか。

私がこんなことを考えているのは、「悲しみからの回復はありえない」という自死遺族の主張を思うからである。こんどの夏には、このことを学術会議で発表する予定である。そこで「自死遺族は、悲しみからの回復を支援しようとするグリーンケアを認めない」というメッセージを出す。そのメッセージの意味を自分の体験から理解できるだろうかと考えているのである。

もちろん天寿を全うした父への思いと、自死で家族をうしなつた悲しみを同等に扱つてはいけないと思う。悲しみの深さが、あまりに違いすぎる。また先日、大学生の娘を殺された父親が、テレビカメラに向かって泣きながら、犯人に対する判決が降りたことを語っていた。あの悔しさ、悲しさは、私の想像をはるかに超えるものだ。

しかし、悲しみがある程度深ければ「回復」しないが、浅ければ「回復」という考え方には、どこか違和感がある。悲しみが深かろうが、浅かろうが、人を喪つた悲しみを「回復」という言葉やイメージとの対比ではとらえたくないというのが、私の気持ちなのである。

では、それが何なのか。私の夢のなかの父の病状が、しだいに良くなっているのはなぜなのか。それをどう表現したらいいのかと考えている。

自死遺族のかたも、亡くなった当初のころとは違つた心持ちなのである。そして、それを「回復」とは呼ばない。「回復」と呼ぶには、重すぎるのだろう。しかし「重すぎる」という他に何か意味があるのではないか。

一つは「回復」というとき、それはあくまでも個人を単位として考えている。家族といえども他者である。他者が亡くなり、自分がバランスを崩したが、元に戻つた。これが「回復」である。しかし「家族」や「親子」を単位として考えれば、それは元には戻らない。欠けたものは欠けたままだ。欠けたまま、それを受け入れるしかないのである。

もう一つは、時間のとらえかたではないか。

「回復」という言葉が、欧米の精神医学から出てきたことは、キリスト教では時間には始まりがあり、終わりがあるということと関係があるのかもしれない。神が世界を救うときに時間は終わる。いわば時間は目的をもって流れている。「回復」しようとする人は、そんな時間と向かい合わなくてはいけない。そこに遺族たちは不自然さを感じるのかもしれない。

一方、仏教では時間には終わりが無い。大河のようにどこから流れ、どこに流れていくのかわからない。その何のために流れているのかわからない時間のなかで、水底に沈む岩の角が丸くなるように、永い年月をかけて悲しみが丸みをおびてくる。

自分に何ができようか、何もできはしないと、いうなかで、時間が大河のように通り過ぎる。私を中心にあるのではなく、まず流れる時間がある。その上に小さな枯葉のように浮かぶ自分がある。

「それでいいんだよ」「いまのままでもいいんだよ」という繰り返しの言葉が、大河の波に踊らされる小さな枯葉には似合っている。無力だろうか。だが世界と和解し、一つになろうとする生き方が、そこにはある。(知)

晴れのち晴れ

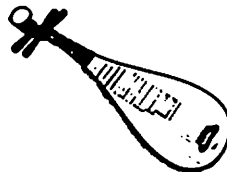
稲垣恵雄

■市民のつどい

去る5月13日、東大阪市民会館で「市民のつどい」が開かれ、私も参加した。

市長さんのご挨拶のあと、第1部は中国ピワで奏でるヒューマンライツコンサートであった。わずか30分程だったが、力強い中にもソフトで流れるようなピワの音に私は終始うっとり聞いていた。

第2部は元アナウンサーで作家の落合恵子さんが「いのちの感受性」というテーマで1時間半にわたって講演された。落合さんは多数の本を出版されているが、単に社会や教育を批判するだけでなく、誰にでも分かるように社会共通な問題にしていくことに努め、小説の形で表現されているようだ。



落合さんは、また病気だったお母さんを7年間にわたって介護されていた。その時、たゞ介護するだけでなく、その合間にハグ（抱きしめること）してあげるのだという。するとお母さんはうれしそうにニコリ笑われるという。お話をすることもいいが、ギュッと抱きしめてスキンシップすることも大切だと思う。子供だって怒ったり叱ったりするだけでなく、そのあとは必ずハグをしてあげてほしい、とおっしゃった。

このお話を聞きながら私は何度もうなづき、しっかりと頭に入れておいた。落合さんは元アナウンサーだっただけに歯切れもよく、講演中は少しもトチルこともなくすごく聞きやすかった。おかげで私は満足した気分で「市民のつどい」会場をあとにした。

中村かずみ

家族でアメリカ!

ケンタッキー州滞在記

— 21 —

夏到来、あつという間に洗濯ものが乾きます。お日様において、幸せですよ。

でもアメリカでは、洗濯物を陽に干せません! なんでも外干し=貧乏人、のイメージなんだとか。そのせいで特に都会の住宅地では、地域の格が下がると条例で外干し禁止になっていたりします。私が生まれた45年前のカリフォルニアでも既に、あの常夏の太陽で干してはいけなかったそうです。もったいない!

さて、田舎のケンタッキー州では? ちょっと郊外に行くと広大なワイン畑や見渡す

限りの牧場で、その中にぼつんと一軒家が。そんなところならいざ知らず、やはり住宅地での外干しは禁止でした。

案内されたマンションにはベランダがあつて、リスがちよろちよろ出入りしていました。最初の何日かはホテルに住みながらの入居準備。その間にも子ども達はプールで遊びます。バスタオルぐらいちよつと干せたら……と思つても、なるほど、掛けるところ無し。日本のベランダなら必ずある竿も、竿を掛ける金具も当然ついていません(洗濯ロープを張ろうかと探しましたが、ロープも洗濯バサミも売っていません)

ご近所を見渡しても、快晴の昼に洗濯物なし! 必ずあるのがテーブルと椅子で、おばあちゃんがつつと座つて編み物していたりします。夕方にはビールを飲んだりバーベキューしたりと、アメリカのベランダはくつろぐための場所なのでしよう(冷暖房が建物ごとなので、ベランダに室外機がないのも居心地がいい理由かも)では何で乾かすかというと、乾燥機です。

備え付けの旧式乾燥機を試しに使うと……縮みました!

日本のシャツだから? アメリカ製の服なら乾燥機対応の筈、と新しく買ってきたTシャツと靴



教授宅で、ワンちゃん子ども達。左の扉は地下室へ



日本なら業務用サイズの家庭洗剤たち



ベランダでくつろぐ主人、至福の時

下を乾かしたら、やっぱりそれも縮みました！縮むのを見越して大きめで買っておくべきなのでしょうが？

唯一タオルはふわふわに仕上がりますが、5枚分に2時間はかかりました。その間他のシャツもジーパンも（これは何時間？）乾かせないわけで、冗談じゃありません。船便が着くまで我慢と、着た切り雀だった5人家族5人は待てません。

結局、乾燥機から生乾きで出すのも2度手間です、主に部屋干しになりました。ハンガーを山ほど買って、全部クローゼットの中に吊るします。日本と違って湿度が低いので乾きは早く（ただ、

日光消毒しない分アイロンをかけた方がいいとか）、こんなこともあろうかと持って行った小物干しは大活躍でした。……小物干しも売ってないということは、アメリカの人は靴下もパンツも乾燥機で乾かすのかも。

パーティーでお邪魔した主人の上司宅（一戸建て）では、広大な裏庭は愛犬の遊び場で、洗濯場は地下室でした。冬場は雪で凍り付く地域で外に干せないのは分かりますが、暖かい季節にはばーっとお日様で乾かしたくならないのでしょうか？私は晴れの日はずうずうず、ペランダ

の椅子の背にタオルを掛けてちよつとでも干したりしていました。

洗剤は、液体洗剤が主流だったり乾燥機用の柔軟剤の種類が山ほどあるぐらいで、あまり違いはありません。マンゴーやメロン、逆に無香料低刺激無添加のこだわり高級品などいろいろ試して楽しめました。after rain™雨上がりの香りもありましたよ。

ただ量が！ 容器が1ガロン（約3.8ℓ）と3ガロンといちいち巨大です。牛乳やジュースの瓶も1ガロン。買い物を持ち帰るのも、注いで飲むのも力が要りますが、洗濯にも力が必要な

国アメリカなのでした。

〈洗濯な映画〉（2006年）

「バブルへGO！タイムマシンはドラム式」

母が作ったタイムマシンは、なんと洗濯機型。

水着姿で回されながらヒロイン（広末涼子）は

過去に跳ぶ！

バブルの1990年がチョー愉快なコメディです！！



お知らせ

<サロン・あべの>8月の出会い

- 内 容：DVD鑑賞会「ハウルの動く城」
- 日 時：8月20日（土）午後1時～4時
- 場 所：育徳コミュニティーセンター2階、

研修室

[大阪市阿倍野区阪南町5-15-

28、TEL06-6621-1901]

○会 費：なし

○問合せ先：TEL06-6691-1028

(富田慶子)



8月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いませんか。

■「サロン淀川」8月の出会い

日時：8月21日(日)午後1時30分～4時
内容：出前講座「地域で悪質商法から高齢者を守るために」
あなたをねらう！～悪質商法～

講師：大阪市消費者センター
場所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3
会費：なし
問合せ先：淀川区社協TEL06-6394-2900

■「サロンにしよど」8月の出会い

日時：8月27日(土)午後1時30分～3時30分
内容：認知症サポーター養成講座
場所：「ふくふく」西淀川在宅センター

会費：なし
問合せ先：中本TEL090-9864-9678

■「サロンにし」8月の出会い

日時：8月6日(土)11時～15時
内容：第5回「そよかぜまつり」を楽しもう！
～現地集合、現地解散。各自で楽しんで～

場所：大阪市立西区民センター
[大阪市西区北堀江4-2-7、
TEL06-6531-1400
問合せ先：宮脇淳TEL090-3949-6973]

■サロン「アイ」8月の出会い

日時：8月13日(土)午後1時30分～4時
内容：難病(ギランバレー症候群神経根炎)と童話
パネラー：津田展志(つだのぶゆき)氏
場所：「おかちやま」生野在宅センター2階ボランテ
ィアルーム

[大阪市生野区勝山北3-13-20]

会費：なし
問合せ先：生野区社協ボランティアビューロー
TEL06-6712-3101

■「てくてくすみよし」8月の出会い

日時：8月13日(土)午前11時～15時
内容：お好み焼きリベンジ
場所：あびさんサロン
会費：1000円
問合せ先：山本篤江TEL06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」8月の出会い

日時：8月7日(土)午後1時30分～4時
内容：「笑いで暑さをぶっ飛ばそう!!」
古典落語DVD鑑賞会、桂枝雀など

ゲスト：脇坂文博さま
場所：鶴見区民センター3階
[大阪市鶴見区横堤5-3-15]
会費：なし
問合せ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
TEL06-6913-7070

■「サロンいたみ」8月の出会い

日時：未定
内容：未定
場所：伸幸苑(伊丹市寺本6丁目150)
問合せ先：安藤れい子TEL072-784-1718

「さろん亭」出店予定

- 日時：10月10日(月・祭)午後1時～5時
- 場所：市立工芸高校グラウンド
- 内容：「第38回あべのカーニバル」
会場に「バザーの店」として参加
- お願い：物品のご提供、値札付、販売のお手伝い等のご協力をして下さる方よろしく願い申し上げます。

<サロン・あべの>Vol.301 発行：平成23年(2011年)7月16日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/ 「サロン・あべの」でも検索できます